
大人のための異文童話集14 爪～真夏の夜の夢

天野久遠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大人のための異文童話集14　爪／真夏の夜の夢

【NZコード】

N4430M

【作者名】

天野久遠

【あらすじ】

蒸し暑い夏の夜、そんなときには不思議な夢を見ることがあります。

それは現実だったのか、それとも本当に夢だったのか…。

どちらともつかない狭間で、ただ脳裏に残った記憶だけが現実として蘇ることが。

夏の黄昏時の雨は勢いよく、轟く雷鳴と駆けめぐらしの雷光を連れてやつて来る。

それは突然にやつてきて、通り縋りのように過ぎて行く。

後に残した雲たちは千切れ千切れ。

既に忘却の彼方へと追いやつたが如く、遠き山々の山頂を越えて漂うばかり。

夜空は澄んで、いつもよりは大きめの月の姿を悠久と映し出す。

そうした空を眺めつつ見つめる私の指。

右手の指の爪ばかりがよく伸びる。

左手の指の爪はそれほどでもないといつて、何故か右の爪ばかり。

きっと

いつも右腕で腕枕をして、残されてしまった自由な左手は

いつでも、いつまでも、

……隅々までを触れられる。

だから

爪など伸びてると、ふとした思いの交情と止め処なく震える胸の高鳴りで

愛おしい私の、大切なあなたの、

……傷つけてしまう。

それで

私の左手の指の爪が勝手に伸びるのを押さえでは、無理で意固地な思い遣りを示そうとしている。

柔らかでなめらかに滑る肌への憶いを、この指先に秘めて。

愛おしき小さな真珠

今宵見たような月明りに照らされて艶やかに輝くときを、まだ夢見
ているだろうか。

恋しき潤いたる瞳

また集まりし雲に朧ゆく有明月のよう、泡沫なる想いと褪せてい
つてしまつたのだろうか。

追憶の中を巡るだけの想いに、もう、想えをくれるものもいない。
それなのに必死で

爪の成長を止めようとするこの左手の指の切なきことか。

毎夜の暑き夢の中

黄昏に見た雲の連なりを駆け巡る稻妻でも掴かまんと
自由な左手は今夜もまた
……彷徨つように探す。

なんとも蒸し暑い夜。

突然に私の前に現れ出て、大きく膨らんだ期待を希望へ変えて
徐々に徐々に、淡く淡く、
……孤独な絶望感へと渡す。

記憶に残るサムサラの番りと、左指に残るその潤いに惹かれて、伸びることを止めた爪。

お前がそうして待つものとは、熱さに魔されて見た夢だったのかも
しない。

本当は初めから相手などいなかつた……自分に都合のいい夢。

(後書き)

BGMには天野月子の“天龍”を聴いて欲しいですね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4430m/>

大人のための異文童話集14 爪～真夏の夜の夢

2010年10月8日13時35分発行